

磐城時報

編輯者 石城郡平町植田十四
印刷者 石城郡平町植田十四
發行所 石城郡平町植田十四
電話 一〇九
代價 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元
廣告料 一行十四字 每日五角
印刷部 一行十四字 每日五角
電話 一〇九

四候補の勢力互角で 當落の豫想つかず

最高は氏家氏か木村氏か 棄権は前回より多からう

選挙も愈々終りを告げ各候補者十票で合計一万六千票と見。事務所でも何れも當選確実を夢比佐氏は一萬四千票から一萬五みてゐるが、各候補者事務所の千票の間の得票であらうと豫想得票豫想を聞くに、民政比佐氏してゐる向きもあるが、この豫平派では一萬七千五百票は確實想から見ても勢力殆んど互角でと號し、氏家清派では一萬六千から一萬七千の間で、政友木村清治派では一萬五千から一萬六千の間、佐藤庄太郎派でも亦當選は確實であると信じてゐるが四候補者の勢力が互に伯仲してゐるので全く豫想を許されぬ状態である。某消息通の豫想によれば、相馬一萬九千八百三名、双葉一萬二千五百六十六名、石城四萬八千名の有権者であるが棄権は前回の一割四分六厘より稍々増す見込である。而して政友、民政の勢力を見ると、各郡を通じて有権者が不景氣を呪つてゐる關係で政友五分五厘、民政四分五厘位の勢力で木村氏の得票は相、双二郡で二千票、石城郡で一萬四千八百票、合計一萬六千八百票。佐藤氏は相馬郡に於て七千六百五十票、双葉郡二千六百四十票、石城郡四千と一萬四千二百九十票。氏家氏は相馬郡で八千三百五十票、石城郡千五百票、双葉郡千六百六十三票の第三區の開票は平、下小川、植

二千名投票

第二次普通選挙の投票は二十日午前七時から午後六時迄の間各町村で行はれたが平町の投票所は元平商業學校で投票者は午前五時半頃から詰めかけたものもあり赤、白、紫と區別された入口に一番先に来たものは赤組平町一丁目飯田近治、白組平町南町草野八百治、紫組平町道匠小路大内秀次郎各氏で午前七時から八時迄の間三百四十四名、最も殺到したのは十時前後で、十一時迄の投票者二千二十七名であつた。投票立會人は木村清治氏は井上茂作、佐藤庄太郎氏は國府田直良、比佐昌平氏は吉田五平氏家清氏は野崎滿藏の各氏であつた。

終了時刻

田、中村の各開票區は二十一日双葉、原町開票區は二十二日行はれるが、その開票終了の豫想時刻は
▲平 區 午後十一時
▲下小川 區 午後七時
▲植田 區 午後九時
▲双葉 區 午後十時
▲中村 區 午後四時半
▲原町 區 午後五時
▲石城郡に於ける三開票區の區域は
▲平 區 飯野、夏井、高久
▲中村 區 飯野、夏井、高久

木村、佐藤の兩氏 當選の可能性充分

第三區殊に石城郡を代表する木村、佐藤の兩氏は稍立ち遅れながら刻々の情勢を綜合すると策戦をねり、それに相呼應して當選圏内に突入した。それでも運動員が「今度こそ佐藤を代議士に出さねばならぬ」と苦闘を絶對安全とは斷じて言はぬの士に出さねばならぬ」と苦闘を以て山崎事務長始め運動員は徹夜續けた結果形勢頓に好轉し十九日警戒と敵の牙城を攻撃し、比佐日夜來の各地の情勢を綜合して氏家の民政派候補を屠らんとすの正に當選圏内に入った。激戦に戦策をめぐらし最後の激戦を以て終始した奮戦に振りこき物凄きものがあり先づ指して突撃した、何せ比佐派は振りこき物凄きものがあり先づ野崎派の軋轢の結果死者狂ひの一萬四千票は確實と計算される戦法で連二無二當選を期してゐる佐藤候補は多年政治運動のためるので木村派はその中に處して忙殺され殊に政友支部幹事長の苦戦は並大抵ではなかつた、重戦にあつて活躍して今日に至るが澤山あるので先づ木村候補は飽くまでも必勝を期してゐる譯が大丈夫等の代表者として當選で、多年の功績がこの一戦で酬の榮譽を賜り得るものと確信さひられやうとしてゐる。

水道課と職業紹介所

元商校跡へ移轉

緊縮豫算に平町の一策

平町では選挙騒ぎが忙し中では毎月の家賃だけでも浮きさる五年度豫算の編成を終へ来る廿七日である。五六日例年の通り豫算町會を開いてこれを附議決定するが五年度豫算は政府の緊縮方針に従ひ前年度より約一割減を以て實現常磐地方における五大炭礦は既を期すべく努めて居る結果各課報の如く今二十日の投票日を何目共歳入出に相當の減少を來すのでこれを補ふ一策として現水炭礦有権者は約一割の無筆その道課を元商業學校へ、現職業紹介所も同所へ移轉し、元商業學校講堂は前方へ引出し町會議員室とし、現町役場も能率増進的に一部模様がへする筈である。元商業學校は現に第二小學校の假教場であるがこれは第三小學校が来る四月開校とにも空くので廢物を利用することになる。なほ現職業紹介所は一月廿五日に借家して居るもので移轉するまでの成績は(投票豫想)

不在投票

石城各濱の棄権多い見込

石城各濱における今次選挙の不在投票は去る十七日から開始さるる現職業紹介所は一月廿五日に借家して居るもので移轉するまでの成績は(投票豫想)

中堅農民講習會

石城郡農會主催の中堅農民養成講習會は来る廿七日より三月廿七日まで一月間毎日午前九時から午後三時まで平町石城團體事務所會議室に於て開催するが科目及講師左の如し。

- ▲作物各論(高根) ▲農費論(同氏) ▲養鶏(三論) ▲養蠶(愛宕) ▲土壤肥料(田中) ▲産業組合論(酒井) ▲果樹(稻田) ▲蔬菜園藝(矢ヶ崎) ▲林業病虫(伊藤) ▲畜産(上川)

波瀾重疊を極めた 第三區の政戦

第三區の政戦も石城民政比佐候補の内郷村における昨夜の演説戦を最後とし終局の幕はあらかちやく今二十日七萬餘の有権者によつて政、民四名の候補者の運命は決せらるゝ事となつたが、果して何人が當選の榮譽を擔ふか、又落選するかは固く封じられて投票箱のみの知る處であつて、其の外はたとひ選挙の神様?でも御存知ない事である。思へば、今次の第三區政戦は波瀾重疊たるものはなかつた。政友派に於ては、相馬、双葉兩郡で候補難に陥つた結果佐藤

た、民政派縣議若松美三氏が同志野崎滿藏氏と縣議椅子争ひをなして勝ちを制して以來石城民政は表裏共完全に分裂し、若松氏が比佐候補を擁いで運動すれば、野崎縣議は男として比佐派に馳せ參する譯に行かず、同志ではあるが氏をせなくてはならなかつた立場に陥つて随分と苦勞した模様で四圍の空氣によく反影してゐるが如く見えてゐる、故に今度の選挙は勢力は全く互角であるので開票の結果は有権者は鶴首してゐる。

小名濱 九八 (二〇〇)
江名 二四二 (四〇〇)
雙間 一一四 (一七〇)
四倉 一〇 (三〇〇)
合計 四六四 (一〇七〇)
で前回の不在投票、小名濱三八江名二一五、雙間四二、四倉一〇六、合計四〇一に比すれば六三の増加に過ぎない、而して投票豫想から見ると棄権は相當多いでなにかと観測されてゐる

